Japan Society of Obstetrics and Gynecology

いという事が判明した．

更に，子宮筋，胎盤，羊水中に現われるDKB, ABPCの割合は，DKBは子宮筋層には28.8%，胎盤18.9%，羊水中には57.3%，ABPCでは子宮筋層に19.4%，胎盤には43.9%，羊水中36.6%であつた．

以上の事から，DKB, ABPCの二種類の抗生物質を妊娠家兎に筋注し，1時間後の各組織・体液内移行状態の検索から，両者共羊水中への移行がみとめられ，特にDKBにおいてはその移行度は高く，家兎における実験においても，DKBは羊水移行の良好な抗生物質の一つと云えよう．

質問　（京都府立医大）金尾　昌明

羊水感染，産褥子宮感染には嫌気性菌の意義が分らないのにDKB単独で良いとお考えか．併用するとすれば何が良いとお考えか．

答弁　（東京歯科大）高畠　弘

① DKBを実験に用いたのは，グラム陰性桿菌感染症を目標としたからである．

② 嫌気性菌感染が考えられる場合には，羊水移行があまり良くないが，CP, TCなどを用いたら良いと思う．

質問　（順天堂大）松田　静治

1．DKB濃度測定時試料中のABPCの不治性化率はどのように測られたか．またSartina luteaのDKB感受性を検討されたか．

2．胎仔移行の薬剤別特徴は排泄の速いDKBを考えると1時間後では指摘できないと思うが，この点如何ですか．

答弁　（東京歯科大）高畠　弘

① Sarcina luteaは特にABPCに感受性が高いので，DKBは測定条件では低濃度であることと，Sarcina luteaの感受性がABPCより劣ることで影響なく測定される．

② 基礎実験で，1時間後が一番血清中濃度が高かつたため．

追加　（順天堂大）松田　静治

1）抗生剤の2剤を1：1で投与する場合の濃度測定法では分離定量法の施行がよいと思います．

2）投与1時間後の成績だけで胎仔移行の特徴を指摘することは難かしく，殊にDKBの排泄の速いことがこの場合の問題点でありましよう．

58．AB-PC（アンピシリン）とMCI-PC（クロキサシリン）の母児・羊水間移行の検討

（北里大）
天野　完，渥美　正典，三浦　達雄
島田　信宏，新井　正夫，長内　国臣

内測法による分娩監視装置の使用など，分娩中の操作が多くなつた今日，分娩中の母児感染防止のための抗生物質投与が必要となつている．そこで，AB-PC（アンピシリン），MCI-PC（クロキサシリン）を分娩中の母体に投与し，両者の母児，羊水間移行を検討した．胎児娩出前10分より8時間33分に至る合併症を有しない正常妊婦37例にAB-PC 250mg, MCI-PC 250mgを筋注，胎児娩出時に母体静脈血，臍帯動静脈血，後羊水を採取し，両抗生物質を定量した．検定菌にはAB-PCにはSarcina lutea ATCC 9341，MCI-PCには血清濃度でStaphylococcus aureus ATCC 65389，羊水中濃度でStaphylococcus epidermidis ATCC 12228を用いて，薄層円筒平板法（標準曲線法）で検討した．結果，母体血中濃度は両者とも注射後1～2時間を経て減少していくが，胎児へはよく移行し，AB-PCでは母体投与後19分ですでに胎児に2～3μg/ml移行がみられ，8時間後も0.1～0.3μg/mlが検出された．MCI-PCでは母体投与後10分ですでに胎児移行が認められたが，6時間以後は胎児血中からは排泄されたため検出されなかつた．羊水中移行は，AB-PCでは母体投与後19分で始まり，蓄積の傾向があり，8時間に至るも2～3μg/ml以上検出されたが，MCI-PCは羊水中では全く検出されなかつた．

MCI-PCの羊水中移行の全くないこと，母体投与後10分代で両者は胎児へ移行することを確認した．

質問　（順天堂大）松田　静治

1．合剤の濃度測定は測定値よりも測定法が重要ですが，分離定量法でないこの方法では感度と再現性が悪いと思われます．測定法（カップ法）と検定菌で特に検討されましたか．

2．血清蛋白結合率の高いMCIPCの測定時除蛋白されましたか．

3．PC系のものは母児間移行は悪くなく羊水中にもMCIPCの濃度移行はみられると思いますが，他剤とも比較されましたか．

答弁　（北里大）天野　完

① 今回は特に検討しておりません．

② 除蛋白はしておりません．

③ 今回は，AB-PC, MCI-PCの合剤を使用したので，MCI-PCの単独投与の場合，又他剤との比較は検討する予定です．

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

追加　（順天堂大）松田　静治

1）血清蛋白結合率の高い MCI-PC では除蛋白されましたか？していないと濃度値は極めて低くなります．

2）MCI-PC 以外の PC 系についても検討されましたか．我々の成績では，PC 系薬剤の母児間移行は低いけれども悪くないようです．

3）57の演題を同じく合剤の濃度測定には分離定量法か精度，再現性および検体量のうえで有用です．

質問　（広島大）平岡　仁司

1．後羊水採取はどのようにされましたか．

2．MCI-PC が羊水中に検出されなかつた理由はどのようにお考えですか．

答弁　（北里大）天野　完

①　児娩出の際，躯幹娩出時に採取し，血液の混入の比較的ないものを材料とした．

②　合剤を用いての臨床的データなので，MCI-PC 単独投与の場合，又定量法の検討を加えた上でないと，MCI-PC の羊水中移行の有無は不明である．

59．Toxoplasma oocyst の感染母体と胎児に関する実験的研究

（東京女子医大）野上　敬子，大内　広子
（同寄生虫学）　日坂　龍昿
（同小児科）　横田　和子

近年 Tp の感染源として猫より排泄される oocyst が注目されてきた．そこでマウスに oocyst 1.6×10^2を経口接腫法で感染させ妊娠および胎児に与える影響を観察し，また慢性不顕性感染母体からの垂直感染の可能性について実験した．なお Tp 抗体価の推移を色素試験（DT）と赤血球凝集試験（HA）で比較し，Tp 免疫抗体特に IgM の胎児感染の早期診断の有用性についても検討した．

成績：1．oocyst 1.6×10^2個を経口接種したところ全例のマウスに感染が成立した．oocyst 感染の母マウスでは対照の非感染母マウスに比べ流早死産および奇形の発生がみられた．妊娠中期初感染群の母マウス15/17例（88.2%）に亜慢性感染群の母マウス16/33例（48.5%）に垂直感染が成立した．過去に Tp 感染仔を出産した慢性不顕性感染の母マウス4/7例（57.1%）に垂直感染の再発を認め，また再出産仔9/44例（20.5%）に Tp 原虫を認めた．

2．妊娠中期初感染群の母マウス13/14例に Tp-IgM 抗体が検出され Tp-IgM 抗体検出の母マウスより Tp 原虫が分離され，また垂直感染が成立していた．また感染仔マウスの4/8例に Tp-IgM 抗体が検出された．

3．慢性不顕性 Tp 感染母マウスより生まれた仔マウスにおいて Tp 感染検出率は DT では6/6，HA では4/6であつた．

結語：oocyst は従来報告されてきた cyst 型による感染に比べ強い感染力を有し妊娠に対しては高い頻度で異常産をおこすことが認められた．マウスを用いた本実験より慢性不顕性婦人からの先天性 Tp 症児の出生の危険性が示唆された．また Tp-IgM 抗体の検索は Tp 胎児感染の診断に有用であると思われる．

質問　（東京大）川名　尚

ヒトの IgM 抗トキソプラズマ抗体について測定されていましたら，その胎児への影響等についてお教え下さい．

答弁　（東京女子医大）野上　敬子

当科で HA 高抗体価の者に対してはほぼ全例に Tp-19S IgM 抗体の測定を行なつておりますが現在までのところ IgM 抗体陽性者約60例中，新生児に異常は認められず又 IgM も認めておりません．

60．HBV 母児間感染に関する研究—DNA polymerase 活性値を指標として—

（九州大）
荒川　公秀，久永　幸生，滝　一郎

HBs 陽性妊産婦56例についてe抗原，e抗体および DNA polymerase 活性値（以下 DNA-P）を測定したが，e抗原陽性は13例（23.2%），e抗体陽性および疑陽性は30例（53.6%），e抗原，抗体ともに陰性は13例（23.2%）であつた．また DNA-P はe抗原陽性例はすべて陽性であるが，e抗原，抗体ともに陰性のものにも1例陽性と認められた．うち HBs carrier からの出生児で6カ月以上追跡した例は41例であるが，児の反応には次の4つの pattern がみられた．すなわち，出生後 HBs が陽転して carrier 化するもの（Ⅰ型，6例），陽転後ある時期で HBs が陰性化するもの（Ⅱa 型，1例），陰転後抗体の出現するもの（Ⅱb 型，1例），陽転する時期を認めぬまま抗体の出現するもの（Ⅲ型，5例），終始して持続陰性のもの（Ⅳ型，28例）の4型である．Ⅰ型とⅡ型はすべて母親のe抗原および DNA-P が陽性であつた．Ⅲ型はe抗原陽性が1例，e抗体陽性および疑陽性が各1例，e抗原抗体ともに陰性で DNA-P 陽性のもの1例，すべて陰性のものが1例と一定の傾向は認められなかつた．これに対してⅣ型はe抗原および DNA-P 陽性のものはみられず，e抗体陽性および疑陽性が22例，

NII-Electronic Library Service